



教育は、共育。互いに育み、育まれる。



ようちえんブック

真砂幼稚園の基本

・・・真砂幼稚園のテーマは・・・

子どもとともに生きる幸せ
ともに育つ喜び



子どもたちとともに過ごす毎日。

子どもたちと活動を共にし、喜怒哀楽を共にする日々。

その中で、自分自身が、ふと安らいていることに気が付くことがあります。

自分の心がとても広がったような心地よい感覚を覚えることがあります。

優しい気持ちになっている自分自身に気づくことがあります。

そして、子どもに教えている中で、自分自身が想像もしなかった子どもたちの発想の豊かさに感嘆することがあります。

子どもを育てている中で、いつの間にかおとなも子どもたちに育てられている。子どもも、親御さんも、先生も、互いに育みあって未来に向かって進んでいく。それが子育てであると思います。

真砂幼稚園は、「子どもとともに互いにより善く成長したいと願う」みなさんが集い、お子さんが育ちゆく、正にその場を共にする、親御さんや教師だからこそ享受できる感動を分かち合う場でありたいと思っています。

・・・真砂幼稚園が目指す在り方・・・

・・・素朴に、自然体で一人ひとりの育ちを見つめ、問いかけ続けます・・・

ときやところが変われば、教育の在り様もさまざまです。子どもたちをとりまく環境のみならず、求められる人間像や方向性、教育内容、そして、その方法も常に変化します。また、一人ひとりの育ちも十人十色ですし、生まれてから3年ほどの短い期間ですが、それぞれの個性もさまざまです。

教育にこれで全て大丈夫という特効薬はありませんし、目新しいメソッド全てが良いとも思えません。

初めて親御さんの許を離れ、自らの力で育ち始めるこの時期、調和のとれた人格を育むためにはどうすればよいか、大切にすべきこととは何なのか、常に考えさせられます。

その中で、「全ては、素朴に、自然体で一人ひとりの育ちを見つめることから始まる」ということ、一人ひとりの人格直視と飾り気ない子どもとの触れ合いが常に変わらない基本であると考えています。

育つ子どもたちも人、育てるおとなも人。人と人同士の優しい温もりの中、自然体で、しかし、決して迎合することなく、且つ緻密に・・・確固たる教育的は意図に裏打ちされた、しかし、それを感じさせない素朴な・・・子どもたちとのそんな出会いや触れ合いができれば、どんなにか素敵なことかと思い、私たちは、そのような園をめざしています。





・ ・ 幼稚園は幼児の学校、学びを大切にします ・ ・ ・

幼稚園は、小さいお子さんの学校。学びがそこにあることが基本です。

しかし、幼児の学びは、小学校以後の学習とは少々違います。まだ、ものの見方や考え方が未分化で教科の体系に当てはめることが難しく、物事を抽象化して知識化したり、文字使って表現したりすることもできない段階の真に入門期、はじめて家庭を離れて、外界と関わるようになる第一歩だからです。

直接対象に触れ、身を置き、五感を発揮して、身の回りの事象に触れていくことが学びの中心です。従って、子供たちの行動一つひとつがすでに学習活動ということが出来ますが、ただそれに任せていては、子供たちには、偶然目にし、感じたことのしか身につけることができません。気づいてほしいことに気づいてくれなかったり、身につけてほしいことを身に着けてくれなかったりしますし、ともすると自主性や個性の名のもとに協調性を欠く子になってしまいます。必要なことを意図的に経験させ、大切なことに気づかせ、感性や価値感や技能をしっかりと身に着けさせていくことが大切であると考えます。

幼稚園で行われる「遊び」とは、子供たち自身の気持ち次第で「やるもやめるも自由」というような家庭での遊びとは異なります。しかし、「授業」という形態によらず、教科書など文字にもよらず、教科学習のように明確に内容や活動が分類できない中での学習活動であるということと考えます。

画一的に文字を覚えたり、数える練習をしたり、身の回りの自然の知識を単に知らされたりすることではなく、体をいっぱい使って身の回りの事象に関わり、五感を発揮して自分の中に取り込む、いわば浸み込むような学び。

体験・体感的に学んだことは、情緒を伴った知識になり、技能になり、思い出になって、その後、心身とも元気に過ごし、成長し、豊かに生活していくための糧になり、人格の基礎を培ってゆきます。そして、それを担うのが幼児期の学びであり、幼児の学校たる幼稚園の立場でありたいと考えています。



先生や友達と共に過ごす中で、人の温もりに感じる安心の下で、規律や思いやりなど道徳的在り様を学ばせてあげたい。園庭の遊具で遊びながら素材の手触りや香り、質感や量感を感じ、学ばせてあげたい。身の回りの植物や生き物に接し、四季の変化や時系列を育ててあげたい。そして、自然の中には自分では左右できない自然の意思があることに気づかせてあげたい。みんなが互いに喜怒哀楽や驚き、感動を伝え合う、豊かで楽しい学び合いの

毎日を送らせてあげたい。そして、なにより、これからの豊かな学習の基礎を作ってあげたい幼稚園での生活です。



真砂幼稚園の教育

・ ・ ・ 真砂幼稚園の教育理念 ・ ・ ・

子どもたちの将来に、幸せな人生を贈る

身の回りに、在る物、起こること全てが興味深く感動的で、あらゆる人を好きになって、喜怒哀楽を分かち合い、為すこと全てが楽しくてたまらない。おとなになったとき、そのような毎日を送れたら、どれほど幸せかと思います。真砂幼稚園での毎日が、将来そのような幸せな毎日を送るための糧となることを願っています



．．．学校教育目標．．．

自ら善く在りたいと思う善意と向上心を育む

○よく心を働かせ、感じようとする子を育てる。

○よく見聞きし、手に取り、進んでわかろうとする子を育てる。

○丈夫な心身をもち、進んで行動する子どもを育てる。



今、育みたい4つのところ．．．

道徳心．．．謙虚な心・感謝の気持ち．．．挨拶とありがとう

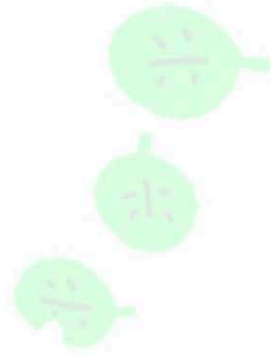
学ぶ心．．．身の回りのことに興味をもち、深く関わり、わかろうとする知的な態度

実践する心．．．あらゆることに「楽しさ」「良さ」を見いだし、取り組もうとする意欲

向上心．．．より良くあろうと取り組み続ける粘り強さと、期待をもち続ける気持ち

指導方針

- 一人ひとりの思いや育ちを大切にし、それぞれの個性が正しく表されるよう指導する。
- 共感的理解に努め、自らの活動の価値に気付かせるように指導する。
- 創意工夫を促し、自ら考える楽しさに気付かせるように指導する。
- 必要な技能や考え方を指導し、的確に習得させ、一人ひとりが、自らの考えや思いを、よりよく具現化・成就できるように指導する。
- さまざまな体験の場を与え、子ども世界が広がるように指導する。



真砂幼稚園のこだわり

子どもも、親も、先生も、
みんなが楽しく学び、
楽しく過ごし、
楽しく育みあえる幼稚園づくり・・・



...学び...

🍀 ゆとりある教育時間 🍀

～学びの時間を保証し、ゆとりをもって一人ひとりを見つめる～

子どもたちの学びには、**時間が必要です**。経験量が少なく、接した一つひとつの事象を自分なりに理解し、自らの経験の体系に取り込むために時間を要するからです。対象をよく見、よく聞き、触れ、少ないながら自らの経験に照らしてその価値を子どもなりに考え、自らのものにし、思いを深める。じっくり、しかし、効率よく取り組ませてあげることが大切だと考えています。



必要な活動時間を十分に確保し、

- 一人ひとりの子に、それぞれに必要な時間を可能な限り保障し、活動に取り組みさせます。
 - 一人ひとりの思いを十分につかみ、子どもたちのペース、学びの速さに合わせた活動を行います。
- 主に一斉活動で行われる午前中の時間と、個々の発想を生かして自由にのびのびと活動する午後の時間というように、日々、自由と規律のバランスの取れた活動に取り組みさせます。

しかし、入園後間もない子どもたちにとっては親御さんからはなれ、社会的な環境におかれるわけですからそのハードルは低くありません。幼児の実態に応じて慣らし保育期間を設定し、段階的に保育時間を延ばしながら、無理なく初めての集団生活をスタートできるようにしています。



自由と規律のバランスの取れた活動構成

～発想力と技能の調和をはかる～

規律は自主性を育て、自由は主体性を育てると考えます。

一斉にみんなで行う活動も、一人ひとりが自由に取り組む活動もなくではありません。一斉に行う活動、子どもたちに任せ自由な環境下で行う活動、それぞれの要素をバランスよく取り入れていく中での確な成長が促されていきます。

一斉に行う活動の中で、教師（おとなから）から伝承される価値観、技術・技能などは、いわば生活していくための道具となります。また、共通の課題や目標、規制があるからこそ必然的に考え、一見、規制のうちの活動であっても、向き合い方には自由と主体的行動が保障され、その子らしさが発揮されます。

一方、自由の中で培われるのは、その後、自分らしく生活していくための基礎となるものの見方、考え方、理解のしかた、そして知恵です。全てが「自分次第」ですので、実は思いのほか子どもたちにとっては難しい学習活動環境でもあります。

この両輪がかみ合って初めて主体的な生活者たるに必要な、「生きる力」になっていくと考えています。

のびのびしていても決して野放図ではなく、規律正しくとも決してお仕着せの硬さがない毎日を構築します。

原則として、午前中は、学年・学級で取り組む活動、午後は、個々の子どもたちが、思うまま、自由にのびのびと活動する時間として位置づけ、日々の計画を立てています。



🍀 ワンダーランド (縦割り活動) 🍀

～新たな自分を発見させ、成長意欲を培う。

分かち合い、認め合い、協力し合い、思いやる心を培う。～

人は、人と関わり続けて一生を過ごします。これを避けて生きることはできませんし、お友だちとのかかわりの豊かさが、生きる豊かさにもつながります。

本園では、異なる年齢の子同士で活動する時間を通年、週1～2回定期的に設けています。「育みあい」の中核的な活動です。

核家族化、少子化、集合住宅などの住環境等々、

子どもたちが自ら人間関係を構築

するに難しい昨今です。そのような中、周りのお友だちと関わる体験を積み、人間関係を自ら構築する力を身につけさせる中核の活動として取り組み、20年以上になります。

活動は、一年を学期の区切りに準じて3段階に分け、段階を踏みながら、最終的にグループ分けやペアリングされた中で、仲良く活動できることを目指

して活動に取り組ませます。いろいろなお子さん同士が分け隔てなく仲良くなることが理想ですが、それを学んでいる過程ですので、グループ作りやペアリングには、一人ひとりの学びにつながるように検討が加わります。

とはいえ、初めて親元を離れて集団生活する幼稚園でのことですから、一人ひとり緊張からスタートします。しかし、それは、子どもたちにとって自分と異なる年齢の子と活動することがとても刺激的であるということですので、小さい子たちながら越えさせるべき重要なハードルです。

「どう接しようか」

「何をしてあげようか・・・」

「どうしたらお兄さんお姉さんみたいにできるのか・・・」など、

互いに関わり合う中で多くのことを自ら考えさせたいと思います。

認め合い、譲り合って協力することが必然的に促され、しかし、ときに、それらと自分の思いとの葛藤も経験し、そして、それらを越えて、優しく接してもらった経験や、優しく接して感謝されたり喜ばれたりした経験の積み重ねが、更なる成長への意欲や思いやりの心を育てます。



また、普段とは異なる集団での遊びは適度な緊張感を伴い、真剣さを促します。そして、真剣な行いは、必ず自分自身の発見という形で自らに返ってきます。同年齢、同学級の友達同士の中では気づかなかった新たな自分の良さや、改めるべき反省点への気づきを、小さい子ながら促し、自ら「お兄さん、お姉さん」になろうとする気持ちを育てていきます。

年長児としての自覚、年長児のようになりたいという気持ちから自らの成長への満足感や更なる成長意欲、向上心が芽生えを期待し、活動に取り組ませていきます。



地域学習



～子どもたちの世界を広げ、積極的に関わる態度を培う～

この地域は、埋め立て造成地域のため、すべてが「人工物」です。しかし、公園がよく整備されていたり、安全にあることができる歩道が整備されていたりするなど、よいところもたくさんあります。また、バスに乗って10分もゆくと、人工とはいえ、砂浜で遊ぶことができることなどでも、他にはない、大変、魅力的な地域です。



このような地域の特性を積極的に取り入れながら学習活動を行うことで、子どもたちの能動性を引き出すとともに、「身の回り」を広げてさらなる活動意欲を培います。

また、公共の場を利用するときのマナーや、周囲の方々への配慮を学ぶ機会としても大切にしています。





各種行事と専門講師による指導



～新たな出会いを演出し、成長への期待感をふくらませる～

●各種行事●

自由遊びは100パーセント子ども自身が作り上げるもの。したがってその成果は子どもたちにとって真に自らの力で得たものです。

これは、接した事象を自分のこととして受け入れ、考え、行動する主体性を育てることになります。しかし、それだけでは子どもの成長にとっては不十分です。なぜなら、子どもの先行経験



は未だ少なく、子どもから発することだけを追っているだけでは、スケールの大きさが伴わないからです。これからの子どもたちに「自分の殻を打ち破り、新たなことへ挑戦していく」姿勢はぜひ身に付けさせたいものです。そこで、子どもの発想からではとうてい自然には発生しない出会いを演出する必要があります。各種行事や専門講師指導が、それらを担っています。

行事への取り組みでは、間隔にはできるだけ時間的なゆとりをもち、季節や子どもたちの成長を考慮した配置をするようにしています。1日の生活も先の長時間の利点を十分に生かし、1日が、行事のための活動に終始しないように気をつけて計画しています。また、子どもたち自身が求める、「取り組み自体の楽しみや到達点」と教師が願う「子



どもたちの頑張りや成長像」の一致を大切にしています。完成の姿ばかりを追って個々の子どもの顔が見えなくなるよう気を付けています。普段着の子どもたちの成長を第一に考えながら、行事も含めた全ての活動が連動しあって調和的に子どもたちの成長に寄与する、「教師と子どもみんなで取り組める目標の一つ」と考えてそれぞれの行事に取り組んでいます。



●専門講師指導●

本園では、英会話・造形表現活動・体育的活動において、専門講師による指導を取り入れています。

指導内容	対象	導入のねらい
体育指導	全学級	お友だちと運動する心地よさや、「できるようになる」うれしさを学びます。また、「できるようになりたい」思う向上心を育成します。
造形遊び	年中・年少	思い描いたことを形（作品）に表す楽しさと技能を学びます。また、お友だちと互いの良さを見つけあう楽しさを学びます。
外国人講師による英会話	年長児	人種、文化等を越えて、いろいろな人と関わる素地を培います。また、言葉菜通じなくても進んで関わろうとする態度を育てます。

これらは、単に技能を身に付けさせるためではなく、今後の成長と基礎となる、関心・意欲・態度形成が第一の目的です。

英会話は、指導を通して、異文化を負う外国の方と接することや、言葉は通じなくても肌の色や面立ちが自分たちと違っていても相手に積極的に接していく態度を形成するために。

造形遊びは、上手な作品を作ることより、自分の思いや考え、イメージを表出する楽しさ、心地よさを味わわせるために。

体育教室は運動する心地よさを体験し、進んで運動したり、自らの体、健康への関心もったりすることを促すために。

さまざまな体験を通して、子どもたちは自らの可能性、世界の広がり気づいていきます。子ども自身が生み出すこと、教育者が提供することがバランスよく合わさって幅の広い人間性が培われます。

しかし、これらは、教育活動を形づくる一部です。各学級の活動が一番大切です。



...学びを支える...



チーム保育の推進



～客観的理解と的確性と安心のために～

現在、本園は、複数の人員で教育活動にあたるチーム保育を実践しています。
複数担任の目的は、

- ①価値観を異にする 2 名の担任が共通の集団（学級）、個人を見ることで子どもに対する理解が深まります。表情や行動を通してしかうかがうことができないその子の内面は、教師の主観的理解の域を出ることはないので、複数の見方や考え方があった方が良く考えます。
- ②個性を異にする教師が複数で担任することにより、子どもへの接し方や、指導方法や、活動計画等に巾が生まれ、子どもたちにとって楽しみや安心になります。
- ③教師が教室を離れたり、特定のお子さんに関わったりする必要が生じたときも、教室を空けたり、他の子の活動を妨げたりせずに済みます。教師の体調不良の影響なども少なく済みます。
- ④室内での活動と屋外での活動を同時進行で計画したり、作業速度等の個人差へ対応したりできます。



また、本園のチーム保育は、「子どもたちや保護者のみなさまにとっては、どちらも先生である」との基本的な考えに立ち、どちらも同じように、いつでも子どもの前に立ち、保護者の皆様に対応できることを目指しています。

複数担任制については、以下の基準で運営しています。

○年少組

- ・1 学級が 20 名に満たない場合は、担任 1 名＋学年付き副担任 1 名（2 学級の場合、1 学年 3 人体制）
- ・1 学級 20 名以上の場合は、1 学級複数担任。

○年中・年長組

- ・1 学級の園児数が 30 名までは原則 1 人担任。
*ただし、幼児の実態・園児数の増減の見通しにより、複数担任、補助教諭の配置等を行います。

園児数の減少や教職員の急な異動、人員の採用状況等諸々の事情により、複数の職員を配置できない場合がございますことを予めご承知おきください。

🍀 教職員育成 🍀

「教師は、職人」が、基本的な考え方です。

資格は、必要ですが、資格が子どもを育てるわけではないからです。

また、「ピアノが弾ければよい」というものでもありません。

必要な技術を身に着ける機会をつくりながら、子どもたちの期待に応え、親御さんも、教師自身も可能な限り安心してお子さんの教育にあたるようにしています。

新規採用者においては、複数担任実施学級に配置し、経験を積んだ教職員とともに業務にあたりながら、必要な知識と技術と経験と教育への考え方を実践的に身に着けさせるようにしています。

また、各種研修会へ参加するほか、全新規採用者には、自らが中心となって活動を企画立案し指導にあたる研修保育を、各学級においては、年1回ずつ、全学級園内研究保育を行って、自ら企画立案した学習活動を互いに見合い、検討し合って、学習活動の質的向上を教員の技術的向上を図っています。



🍀 フィードバック 🍀

・・・「育みあい」を醸成する・・・

参観コーナー・・・施設の外から園庭の活動の様子をご覧いただくコーナーです。

インターネット・・・園児用ホームページ内の「ひみつブログ」で幼稚園の活動の様子や必要な連絡事項をお知らせしています。

玄関ホールのテレビモニター・・・幼稚園の様子の最新の写真や、各教室の様子を放映しています。

リレーションシップ・・・毎月、各々の様子を総括し、「振り返り」と「励まし」の形式のコメントシールを



出席シール帳に貼付してお知らせします。このコメントシールは、同じものが、各幼児個々に作成された「個人記録カード」にも貼付され、お子さまお一人おひとりの成長の記録として、在園期間中は、進級とともに引き継がれていきます。

参観日・・・・・・・・・・各月の誕生会のほか、お子さまの成長をご覧いただく機会をとっています。(別紙参照)



園庭環境



～人に優しく、学びあいを促す環境づくり～



直接経験による浸み込むような学びが、この時期のお子さんの学習であるという点から、思いおもいの活動（遊び）が展開される園庭の環境は大切にしています。

本園では、集合住宅居住のお子さんが大多数という生活環境や地域の環境などを踏まえ、子どもたちの学びを促すよう、

- ①全身をつかって遊べること
 - ②友達の関わりを必然的に促がすこと
 - ③見て、触れてやさしいこと
 - ④地域にかける環境を補い、豊かな学習体験を促すこと
- の視点から、園庭整備を行っています。

また、木製の大型遊具や、多くの友だちと関われるよう2人乗り、3人乗りの三輪車の導入を進めています。どれも単純かつ素朴ゆえに、飽きられることなく、子どもたち



の遊びが継続的に発展していきます。

また、園内の花壇や畑を使い、栽培活動を行

ったり、真砂公園をはじめ周辺施設を活用したりしながら、園に欠ける環境を保育に取り入れるようにしています。



園舎

平成20年1月に竣工し、幼稚園の園舎に求められる機能に重点を置いています。

柔軟に配置変更でき、預かり保育やなかよしルームのための専用室、早退児やバス待ちのためのスペース。教室の前まで土足のまま行くことができ、ベビーカーや車椅子も持ち込み可能な幅広のウッドデッキ。大人用トイレの増設と車椅子対応トイレやベビーカーや車椅子用のスロープなどを設けてあります。子どもたち作品や掲示物を引き立たせるために教室はシンプルに作ってあ



ります。しかし、ワンダーランド（縦割り活動）や作品展、バザー、隣接する学級同士の支援体制作りなど本園の諸活動を踏まえて、隣接する教室間に通路を確保して、2教室1組で活動できるようにしてあります。



安心子育て

●「のびのびルーム」（預かり保育）●

通常・・・降園時刻～午後5時30分

通常降園日・・・600円

午前保育日・・・午後3時まで（600円/回）

午後5時30分まで（1,000円/回）

朝のび・・・朝7時30分～8時30分（500円/回）

夜のび・・・通常「のびのび」終了後、午後7時まで

（延長分500円/回 通常部分との合算1,100円/回）

●「なかよしルーム」（未就園児親子教室）●

前期（10月まで）・・・一般参加 可

後期（11月～）・・・次年度入園予定者



●「ベビーなかよし」（0・1歳児親子教室）●

赤ちゃんのための親子教室です。

3月から定期開催します。2月に募集のご案内をします。

内容：ベビーマッサージ、ベビーサイン、リトミックなど幅広い活動内容を、専門の先生がカリキュラム化して活動します。



安全

●防災教育●

身を守るに必要な知識や技能を身に付けさせるため、避難訓練を毎月実施しています。各教室に備えてある防災頭巾の着用練習、避難経路や避難の基本動作などの指導、災害時の避難場所の教授など、総合的に行います。



●災害対策●

○いち早く察知する

緊急地震速報を受信して、館内放送する装置を設置しました。直下型の場合は、P波を検知して施設内に知らせます。

○行動の仕方の基本を作る

災害発生時の行動について、マニュアルを作成しています。

バスについては、緊急時の指示書のほか、バスルート上の緊急避難場所を記した地図を積み込んでいます。



○通信手段を確保する

車載無線機を使用して、緊急時にバスとの通信を確保しています。また、園内基地局の装置などのため、非常用バッテリーや発電機を常備して電源を確保しています。

園内における職員間の連絡手段・情報伝達ツールとして、館内放送のほか携帯無線機を各教室に配布して、副担任が常時付けています。日常的に園内の連絡に用いることで習熟を図っています。

保護者のみなさまとの連絡には、メールシステム、ブログ、携帯電話、アナログ電話など複数の通信手段を準備しています。使用可能なものを使います。

○避難する（その1）

第1次避難場所は、火災・地震共通で園庭です。

津波や液状化には、対策として、屋上（高さ7.7m GL）を整備し、現在この

付近で想定されている高さ（3m強）に備えています。さらに大規模災害のときは、小学校に避難要請します。

○避難する（その2）

地域の避難場所および広域避難場所は、隣の第5小学校および真砂公園、東京歯科大学周辺です。

○しのぐ（水の確保）

緊急時の水源は、停電時は水道水をポンプで2階に押し上げるために一時貯水しておく受水タンク内の水を汲んで、電源回復後は、地下水を汲み上げて滅菌して使います。

また、行事で使用する冷凍の食品を多めに準備して、残ったものを庫内で保管しています。先の震災で、親御さんが遅くなったお子さんに食べさせた経験によります。また、必要な熱を得るために、プロパンガスおよび関連機器を準備しています。

○今後の計画

- ・非常用品の備蓄を進めます。
- ・大型緊急用発電機の導入を計画し、最小限の数の空調機器やポンプ、照明機器を作動させることができるようにすべく検討しています。
- ・高所への避難の習熟を図ります。
- ・バス運行時の対策をさらに検討していきます。



●侵入者対策●

○見張る・チェックする

全ての来園者を正面玄関から出入りいただき、入退館を管理しています。また、園内10か所以上にカメラを設置して、監視・記録をしています。

●放射線対策●

園内の放射線量を適宜測定しています。また、砂場の砂なども放射線測定してのち搬入しています。現在、 $0.06 \mu\text{Sv}/\text{h} \sim 0.1 \mu\text{Sv}/\text{h}$ で推移しています。

また、排水溝の砂の除去など必要に応じて除染を行っています。芝生の広場は、線量が他に比べて高くなる傾向があるため、現在は、芝生を撤去してあります。

真砂幼稚園の生活時間



保育日

月曜日～金曜日

(土曜日、日曜日、祝 祭日休園)



保育時間

9:00～15:00

9:00～11:30 (職員研修日等半日保育日)



1日の主な流れ

7:30～8:30	あさのび (早朝預かり保育)
8:45～9:00	登園身支度
9:00	戸外遊び
9:30	朝の体操 (全員) 入室後朝の活動
10:00	主にみんなで取り組む活動 (9:30～ 専門講師指導)
11:30	昼食準備・昼食
12:30	自由遊び
13:00	主に戸外遊び、ワンダーランド活動 (週2回)
14:30	降園準備・歌・読み聞かせ・お話ビデオ等
15:00	降園 のびのびルーム (預かり保育) 開始
17:00	最終バス出発 (のびのびルーム・課外教室参加者)
17:30	のびのびルームお引渡し最終
17:30～19:00	よるのび (預かり保育延長)

* 専門講師指導時間や、プール等施設使用割り当てを要する教育活動の都合により、変動することがあります。



主な年間行事



は る



○入園式

○家庭訪問

○慣らし保育

年少さんは段階的に約1ヶ月、年中さんは最長約1週間です。

○一日動物村（全園児）

園庭が動物園に変身します。いろいろな動物を見て、触れて、乗って命の温もりを体験します。



○学級懇談会

自己紹介に始まり、その年の役員さんを決めたり、学級担任から学級経営方針等をお話させていただいたりします。

○春の親子遠足（年少児親子、年中児親子）

保護者同伴で遠足に行きます。子ども同士、親御さん同士の親交を深めます。



○内科・歯科検診



な つ



○園内人形劇鑑賞会

毎年嗜好を変えてみんなで人形劇を楽しみ、情操、聞く力を培います。

○園外保育（学年活動）

近くの公園、神社まで自分の足で歩きます。現地では季節柄花摘みなど自然体験を積みみます。

○水遊び



大型プール3台で思い切り水遊びをします。水に慣れ、心地よさを体験し、季節感を培います。

○個人面談

学級でのお子さんの様子やこれからの課題について話し合います。

○お店屋さんごっこ

年長さんが開く手作り品のお店が並び、みんなで買い物をします。売るのは年長さん、買うのは年少さんや年中さん。全園児で作った、彩り豊かな手作りの品物が店先を飾ります。

○ボディペインティング

みんなで絵の具まみれになって楽しみます。絵の具の感触を全身で感じ、自分の体を思い切り塗りたい開放感を楽しみ、友だちとも絵の具を付け合いながらスキンシップを体験します。

○バザー

父母の会と幼稚園の共催で開催します。お母様方の手作り感のある各コーナー、お店が素敵です。ステージプログラムも企画され、大勢で賑わいます。華やぎある幼稚園のお祭りです。みんなで力を合わせて、少々大変ですが楽しく取り組んでいます。



○夕涼み会（全園児）

やぐらを囲んでみんなで踊ります。花火も夏の楽しい思い出になります。



○お泊り保育（年長）

みんなでお泊りします。キャンプファイヤーをみんなで楽しみます。親御さんのもとを離れ、緊張の一夜です。現在は園外の施設を利用しています。

○夏季保育①（7月下旬～8月上旬 希望者）

プール、ザリガニつり、シャボンなど夏の遊びを満喫します。

○夏季保育②（8月下旬 希望者）

夏休み明けの慣らし保育を兼ね、水遊びのほか、お友だちと公園に出かけたり、制作活動にじっくり取り組んだりします。



○なし狩り遠足（年中、年少親子）

みんなでなし狩りに行きます。大きな公園でお弁当を食べ、芝生の広場で元気に遊びます。



○運動会

みんなで走り、踊り、応援し、体を元気いっぱい動かすことの心地よさを体験します。年長さんは応援などの係り活動も頑張ります。

○芋掘り遠足（年長親子）

本物の畑で自らの力でお芋ほりに挑戦します。土や草の香り、感触を満喫します。後日、お土産のお芋を焼いたり、蒸かしたりしてみんなで食べて実りの秋の楽しさを体験します。

○園外保育（学年活動）

周辺の神社や公園に歩き遠足を行います。どんぐり拾いなど体験させ季節感を培います。



○遊戯会（全園児）

学級ごとに歌、踊り、劇を発表します。自らの役割意識、お友だちと協力する心、表現の楽しさを培います。運動会を並ぶ大きな行事です。

○お楽しみ会（全園児）

お話や劇の出し物の後、サンタさんからのプレゼントが楽しみです。

○おもちつき

みんなでお餅をつきます。きな粉といそべ、みんなたくさん食べます。お餅を食べられない子には、もち米のおにぎりを作ります。

○マラソン（全園児）

競うことなく自分のペースで最後まで……。丈夫な体と強い心を育てます。冬の冷たい空気もまた心地よいことに気づきます。

○まめまき（全園児）

みんなで手作りのお面をかぶって鬼を退治します。最後は、鬼と仲直りして終わります。

○作品展（全園児）

1年間の作品の中から選りすぐりの作品を各自出品し、お友だちと互いの良さを認め合います。共通のテーマの下、各学級で取り組む共同制作も楽しみです。



○親子観劇会（全園児親子）

大きなホールで幼児向けの劇を楽しみます。子どもの成長は親御さんのもとを離れ自立への道程でもあります。過ぎてしまうと短い、親子でとも過ごす時期です。親子で劇を観るのは幼稚園ならではの楽しみです。

○お別れ会（全園児）

在園生みんなで年長さんを送る会を開き、感謝の心を表します。



○修了遠足（年長）

修了の日を前に学年みんなで思い出作りの遠足をします。

○修了式（年長）

幼稚園で過ごす最後の日。成長した子どもたちの姿に、入園したころの様子が思わず蘇ってきます。



そ の 他



○誕生会（毎月）

将来の夢を発表する自己紹介のコーナーを設け、お友達への関心を喚起します。

○あるけあるけ（各学年）

近くの海岸に歩きに行きます。もちろん貝殻拾いや波打ち際での遊びも行います。年間4回を目標に計画し、子どもたちの体力増進、地域理解、そして何より四季折々の空気の香りを体験させ季節感覚を培うことを目的としています。



よくご質問を頂戴すること



給食について

子育て支援について（預かり保育・未就園児教室）

送り迎えについて

安全について

学級編成および教職員配置について

保護者のみなさまにご来園いただく日について

課外教室について

父母の会活動について



給食指導（水～金曜日）

偏食、マナーの指導を行います。嫌いなものでも、食べる努力は促しますが、強要することはありません。給食の日は、給食がんばりカードで、食べた料など様子をお知らせしています。（評価基準は、学年・学級により異なります）

* 専門業者によるお弁当形式の給食です。月末に献立表をお配りいたします。

* 月曜日・火曜日は、おうちからのお弁当です。

* アレルギー関係は、卵除去食のみ用意しています。お弁当箱の貸し出しなども行ってありますので、配慮が必要なときは、ご相談ください。

尚、希望制ではありませんので、欠席等に伴う返金はできませんことを予めご承知おきください。

子育て支援

●のびのびルーム（預かり保育）●

職員会議日等を除く、保育日の放課後に行っています。5：30までお子さんをお預かりいたします。当園正規職員が専任で保育にあたります。

費用（平成25年度）	平日	600円（15：00～17：30）
	半日	1,000円（11：30～17：30）
	月単位	10,000円／月
	早朝	500円／回（7：30～8：30）
	夜（延長）	500円／回（17：30～19：0）

* おやつ・着替えとともに、申込用紙に料金を添えて利用日の朝にお申込みいただきます。

* 通園バスご利用の場合、5時発の便を運行しています。（園までお迎えいただくときは通常通り午後5時30分もしくは午後7時までのお預かりとなります）時間短縮のためバス停につきましては通常とは異なります。4月以降、園児の居住地の実態を踏まえて設定、ご連絡いたします。

* 会議・行事等によりのびのびルームを実施しない日は、園便りで予めご連絡いたします。

* 夏休み・冬休み・春休み（長期休業）中ののびのびルームを平成26年夏から開始します。開催方法は、後日決定次第お知らせいたします。

実施の概要（予定）：時間	午前8時30分～午後5時30分
給食	あり
バス運行	なし

●なかよしルーム（未就園児教室）●

次年度3年保育入園資格者、同2年保育入園資格者の2コースがあります。

園独自にカリキュラムを作成し、年齢に適した活動を提供します。

費用 25,000円（平成26年度） 10月までに15回実施予定

送 り 迎 え

当園では基本的に保護者の方々に幼児の送り迎えをお願いしています。

バス通園のお子さんもバス停までは送り迎えをお願いしています。

いずれも、親御さんの送り迎えを原則としています。他の方にお迎えを依頼するときは、安全上、幼稚園への事前の連絡をお願いしています。また、小中学生以下のお子さんへのお引渡しは、不審者等への安全対策からお断りしています。

尚、個人的なご事情による利用方法の変更は原則として行っておりません。また、やむをえない事情によりご相談を頂戴したときも、ご要望に副えない場合がございます。

・ ・ ・ 送り迎えも学びの場 ・ ・ ・

当園ではお子さんと通園していただくのが原則と考えています。何故なら、「親の背中を見て育つ」のたとえの通り、何気ない毎日の通園の道でも子どもにとっては交通ルールやその意義、その他社会ルール、身近な環境への関心を促す大切な学習の場だからです。子どもたちは学校や幼稚園の中で教わることよりもそうした日常生活の中で学び、身に付けることの方が圧倒的に多いのです。私たち教育に携わる者としましては、その事を大切にしていきたいと思うのです。したがって、バス運行地域にお住まいの皆様の中で、自ら送り迎えをお考えのときは、バスをご利用いただかなくても結構です。

通園バスについて

当園では、別紙運行時刻表記載の地域に通園バスを運行しています。

バスを利用する場合、徒歩の幼児に比べ、場所やコース・便によっては朝が早かったり、お帰りが遅くなったりすることがあります。おうちから離れる時間も長くなりますことを予めご承知おきください。

運行計画立案に当たっては、徒歩通園の子と一緒に活動する時間を多くし、同じ内容で教育することを第一の目標としています。したがって、全体の運行時間を短くして、朝は2便に乗車するお子さんの到着をできるだけ早く、帰りは2便に乗車するお子さんのお渡しの時間をできるだけ早くという意図の下に計画します。

- 1、通園バスは、以下の地区を運行しています。(3台6路線)

○花見川から東京側に位置する中の以下の地域

打瀬・幕張町の14号線より海側の地域・幕張本郷・幕張西・浜田

- 2、バス停は、お住まいのご住所をもとに幼稚園が指定するバス停をご利用いただきます。

3, 凡その運行時間帯は別紙の通りです。運行ルートは毎年改定いたしますので、送迎の時間が変わることがございます。お子さんの習い事やお勤めをお考えの時はお気を付けくださいますようお願いいたします。(多くのお子さんがご利用になりますので、個人のご要望は原則としてお受けいたしません。)

4, 実際の運行やバス停周辺の状況により、年度途中で時刻表やルート、バス停を変更することがあります。



安 全



保育中、子どもたちが接する遊具、玩具、施設、設備等につきましてはその安全について随時点検を行っておりますほか、大型遊具に関して、現行の安全基準（指針）適合品に更新を終えています。また、保育活動計画においても安全面については十分に配慮し、活動中も教師、職員が気を配っております。しかし、小さな子ゆえ思わぬところで怪我をしてしまうこともあります。必要に応じ、登降園時やお電話にて担任よりご連絡させていただいております。入園後、保険証の写しをご提出いただき、緊急の際の通院に対応します。

緊急のときは、保護者様にご連絡し、かかりつけのお医者様にお連れ頂くことを第一とします。さらに急を要するときは、近隣の医院で手当いたします。

外科・・・真砂クリニック（左記休診日は、森整形外科他）

内科・・・真砂内科・小児科医院ほか

歯科・口腔外科・・・東京歯科大学病院ほか

また、当園では、独立行政法人 日本スポーツ振興センター（旧 学校安全会 窓口一幼稚園）に全園児ご加入いただき、登降園および保育時間中の不慮の事故に対応しています。また、社団法人 千葉県幼稚園協会が主催いたします損害保険にも任意でご加入いただいております。この保険は幼稚園内に限らず、生活全般をカバーするものです。

尚、不審者対策として以下の物を導入しています。

警察への緊急通報システム／防犯カメラ／門扉のカードキーシステム／カメラ付インターホン／ネットランチャー（不審者捕獲網）／さすまた ほか



学級編成・教職員配置



教職員の配置に関しましては、以下の基準により行います。

複数担任制については、以下の基準で運営しています。

○年少組

- ・1学級が20名に満たない場合は、担任1名＋学年付き副担任1名（2学級の場合、1学年3人体制）
- ・1学級20名以上の場合は、1学級複数担任。

○年中・年長組

- ・1学級の園児数が30名までは原則1人担任。
- *ただし、幼児の実態・園児数の増減の見通しにより、複数担任、補助教諭の配置等を行います。

園児数や教職員の急な異動、人員の採用状況等諸々の事情により、複数の職員を配置できない場合がございますことを予めご承知おきください。

尚、現在、年少から年中に進級する際に学級の再編成（クラス替え）を行っています。

また、お友だち作りをはじめ学級解体に伴う幼児の負担を軽減し、縦割り活動などを円滑に開始するなどのため、年中から年長への進級時には、原則として再編成は行っておりません。

保護者のみなさまにご来園いただく日

本園の教育活動およびお子さんの成長の様子をお知らせする目的で保育参観日をほぼ毎月設定しています。（行事・面談等がこれに変わる月は除く） また、懇談会やお子さんのお誕生会にお越いただき、幼稚園の様子をご覧いただいております。月ごとに偏りはありますが送り迎えを除いて、月に2～3回幼稚園にお越し願っております。（別表参照）

各ご家庭と協力してお子さんの教育に当たるといふ点から、また、保護者の皆様には、いたずらにご不安や行き違いを頂かないために、さまざまな機会に幼稚園にお越しいただき、**幼稚園におけるお子さんの日常を肌で感じていただくこと**をお勧めしております。

課 外 教 室

鉛筆ランド（硬筆書き方）・・・火曜日

造形教室・・・・・・・・・・水曜日 / 英会話教室・・・・・・・・・・木曜日

サッカー教室・・・・・・・・・・木曜日 / 体操教室・・・・・・・・・・金曜日（原則）

- * 預かり保育のお子さんとともに5時発のバスをご利用いただくことができます。（但し、のびのびルームを実施しない日はバスが出ませんので予めご確認ください）
- * お申し込みは、各運営団体に直接お申込みいただいております。
- * ヤマハ音楽教室は、平成26年4月末日をもちまして、閉講いたします。
- * 「ヒップホップ教室」開講準備中です。

父 母 の 会

本園では、在園生の保護者のみなさま全員をもって「父母の会」を組織しています。会長様、副会長様はじめ各学級選出の方々から構成される本部役員および各班のみなさまを中心に主体的に活動し、幼稚園の区王位句活動をご支援いただいております。

バザーを開いたり、リサイクル活動を行ったり、各種行事のお手伝いを頂戴したり、バザー等の収益で子どもたちのために鑑賞行事を企画したり、活動は幅広く、役員さん以外にもお手伝いをご参加いただける活動もあります。お互い、転出入が多い地域にお住いの、子どもたちの入卒園とともに、毎年入れ替わる保護者のみなさまです。保護者様として幼稚園生活を共にする親御さん同士も、活動を通じてお友だちを増やしたり、関係を深めたりしながら、充実した幼稚園ママ生活を送られますことを願っています。



月	内 容	月	内 容
4月 上旬	入園式	9月 初旬	梨狩り（年少のみ親子）
中旬	保護者会	10月 上旬	運動会
下旬	家庭訪問	11月 上旬	参観日・保護者会
5月 上旬	保護者会	12月 初旬	遊戯会
下旬	参観日・給食試食会	1月 下旬	マラソン納会
6月 上旬	親子遠足	下旬	クラス親睦会
中旬後半	参観日（土曜日）	2月 初旬	親子観劇会
下旬	お店屋さんごっこ （自由参観日）	中旬	作品展（自由見学）
下旬	バザー	下旬	個人面談
7月 初旬	夕涼み会	*	*
中旬	個人面談	*	*
毎月	誕生会（誕生児保護者）	不定期	各役員会活動
毎月	例会（クラス役員）		その他

保護者参加を要する主な行事等



今は遠くとも、いずれ必ずおとずれる、
20年後のこの子たちのために今・・・。

平成26年度版

平成26年1月6日改訂版